



国宝「はやらいごう早来迎」修理後初公開

特別展

法然と 極楽浄土

プレスリリース

SPECIAL EXHIBITION

HŌNEN AND PURE LAND BUDDHISM

開催趣旨

平安時代末期、繰り返される内乱や災害・疫病の頻発によって世は乱れ、人々は疲弊していました。比叡山で学び、中国唐代の阿弥陀仏信仰者である善導(613～681)の教えに接した法然(法然房源空、1133～1212)は、承安5年(1175)、阿弥陀仏の名号を称えることによって誰もが等しく阿弥陀仏に救われ、極楽浄土に往生できると説き、浄土宗を開きました。その教えは貴族から庶民に至るまで多くの人々に支持され、現代に至るまで連綿と受け継がれています。

本展は、令和6年(2024)に浄土宗開宗850年を迎えることを機に、法然による浄土宗の立教開宗から、弟子たちによる諸派の創設と教義の確立、徳川将軍家の帰依によって大きく発展を遂げるまでの、浄土宗850年におよぶ歴史を、全国の浄土宗諸寺院等が所蔵する国宝、重要文化財を含む貴重な名宝によってたどるものです。困難な時代に分け隔てなく万人の救済を目指した法然と門弟たちの生き方や、大切に守り伝えられてきた文化財にふれていただく貴重な機会です。

本展の見どころ

鎌倉仏教の一大宗派である浄土宗の美術と歴史を、鎌倉時代から江戸時代まで通覧する史上初の展覧会です。

開宗850年の大きな節目を契機に、浄土宗各派の協力を得て至宝が集まる決定的な展覧会です。

重要文化財「選択本願念仏集」「七箇条制誡」など宗祖・法然にちなむ貴重な資料をはじめとする、国宝・重要文化財を多数含む文化財が一堂に集結します。

国宝「綴織當麻曼陀羅」「阿弥陀二十五菩薩来迎図(早来迎)」をはじめとする浄土教美術の名品や、「仏涅槃像」などスケールの大きな優品など、浄土宗ゆかりの多彩な文化財をご覧ください。

戦争、天災、疫病などと向き合い、人々の救済を目指した法然やその継承者たちの姿は、現代の転換期を生きる私たちに生きるヒントを与えてくれることでしょう。

各会場の特色と見どころ

東京

関東には、法然、聖光に続く浄土宗第三祖・良忠が鎌倉時代中期に興した鎌倉光明寺や、室町時代に浄土宗中興の祖・聖岡が浄土宗の教義をまとめた常福寺(茨城県)など、中世にさかのぼる重要寺院が所在しています。また、聖岡の弟子聖聡が関東浄土宗の拠点とした増上寺は、のちに徳川将軍家の篤い帰依を受けてその菩提寺として大いに興隆しました。東京会場では全国のゆかりの名宝とともに、浄土宗850年の歴史で度々重要な舞台となった関東の浄土宗寺院の宝物にも重点をおいてご紹介します。

京都

法然がその生涯の多くを過ごしたのは、平安京すなわち京都でした。今日、この地には、浄土宗総本山知恩院をはじめ、これに金戒光明寺、百萬遍知恩寺、清浄華院を加えた四ヶ本山や、また西山各派総本山の禅林寺、誓願寺、光明寺といった、重要な寺院が集中しています。京都会場は3会場中最多の出品数で、これらの寺院に伝わる名宝の数々をご紹介します。展覧会とともに、ぜひ秋の京都で浄土宗の各寺院をお巡りください。

九州

九州国立博物館では初めてとなる浄土宗をテーマにした特別展であり、会期中の2025年10月にはちょうど開館20周年を迎えます。福岡は、浄土宗第二祖にして鎮西派の祖となる聖光の出身地です。聖光は比叡山で学んだのち36歳で法然の門弟となり、やがて都における法然教団への弾圧が迫るなか鎮西(九州)に戻り、久留米に開いた善導寺を拠点に師の遺志を継いで称名念仏を広めました。鎮西派の発祥の地ともいえる福岡において、浄土宗の歴史を彩る優品の数々をご覧ください。





ほうねんしょうにん せう たかのふのめ えい
法然上人像(隆信御影) 鎌倉時代・14世紀 京都・知恩院蔵

法然関係年表

- 長承2年(1133)……法然(幼名勢至丸)、美作国久米南条稲岡庄(岡山県久米郡久米南町)に生誕。
保延7年(1141)……9歳 夜討を受け父を亡くす。
久安元年(1145)……13歳 比叡山に上る。
久安3年(1147)……15歳 出家受戒。
久安6年(1150)……18歳 比叡山黒谷に移り、法然房源空を称する。
承安5年(1175)……43歳 唐・善導の著作の一節に導かれ、専修念仏の教えを確立する。立教開宗。
文治2年(1186)……54歳 大原で他宗の学僧と問答をおこなう(大原談義)。
建久元年(1190)……58歳 のちの西山派祖・証空が門弟となる。
建久6年(1195)……63歳 源智、門弟となる。
建久8年(1197)……65歳 のちの鎮西派祖・聖光が門弟となる。
建久9年(1198)……66歳 九条兼実の求めに応じて『選択本願念仏集』を著す。
正治2年(1200)……68歳 鎌倉幕府、専修念仏を禁じる。
建仁元年(1201)……69歳 のちの浄土真宗祖・親鸞が門弟となる。
元久元年(1204)……72歳 延暦寺僧徒、専修念仏停止を訴える。『七箇条制誡』を作成する。
元久2年(1205)……73歳 興福寺、念仏停止を奏上する。
建永2年・承元元年(1207)……75歳 流罪となり、讃岐国(香川県)に留められる。
建暦元年(1211)……79歳 帰京し、東山大谷に住する。
建暦2年(1212)……80歳 入滅。
嘉禄3年(1227)……延暦寺僧徒、法然墓を破却。遺骸は翌年粟生野に移され茶毘に付された。

法然を読み解くキーワード

極楽浄土と 阿弥陀如来

浄土宗でもっとも中心的に信仰される仏(本尊)は、極楽浄土に住む阿弥陀如来(阿弥陀仏)です。阿弥陀如来はすべての衆生を救うために立てた48の誓願を達成し、極楽浄土を建立しました。西方にあるといわれるその世界は、美しい七宝や花、妙なる音楽に満ち、一切の苦がありません。念仏を称える人が現世で臨終の際、阿弥陀如来は聖衆とともに来迎し、極楽浄土への往生に導いてくれると考えられています。

浄土教と浄土宗

もともとインド・中国で発展した極楽浄土への往生を願う信仰は、日本では天台宗の比叡山延暦寺や平安貴族を中心に取り入れられました。一般にこれらを「浄土教」「浄土信仰」と呼びます。源信の『往生要集』は平安時代におけるその代表的な著作です。法然はこのように浄土教が盛んであった比叡山で学び、とくに中国の善導から大きな影響を受け、独自の教義を確立し教団を形成するに至りました。これが今に続く「浄土宗」で、親鸞の浄土真宗や一遍の時宗が成立する土台ともなりました。

南無阿弥陀仏と 専修念仏

「南無阿弥陀仏」とは、「阿弥陀如来に帰依します」という意味です。浄土宗では、六字名号ともいわれるこのフレーズを、念じるだけでなく声に出すこと(称名念仏、口称念仏)が、極楽往生を遂げるために必要な行法とされます。他の行を排してひたすら念仏を称えれば極楽往生できるという「専修念仏」の教えは、立場の異なる教団から批判を浴びましたが、その容易さから多くの支持を得ました。

(部分)



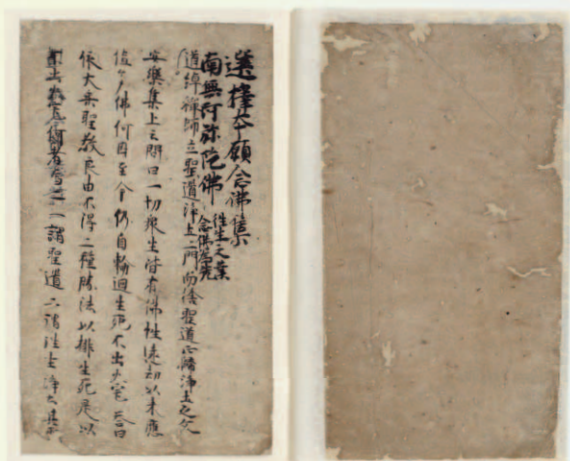
第1章 法然とその時代

相次ぐ戦乱、頻発する天災や疫病、逃れられない貧困など、平安時代末期の人々は苦悩に満ちた「末法」の世に生きていました。この時代に生を享けた法然は、比叡山で天台僧としての修行を積みますが、43歳の承安5年(1175)、唐の善導の著作によって専修念仏の道を選びました。「南無阿弥陀仏」と称えれば救われるという教えは幅広い階層の信者を得ます。しかし、既存の仏教界からは念仏を止めることが強く求められ、ついに法然は75歳のとき讃岐国(香川県)へ配流されるに至りました。やがて帰京し、80歳で往生を遂げます。本章では、浄土宗の歴史のはじまりである、祖師・法然の事績や思想をたどります。

※記載の展示期間は東京国立博物館のものです。
※前期は4月16日(火)～5月12日(日)、後期は5月14日(火)～6月9日(日)、期間表記のないものは通期での展示を予定しています。
※作品が展示される会場は、**東** 東京国立博物館、**京** 京都国立博物館、**九** 九州国立博物館で示しています。

数少ない鎌倉時代の作、
法然の肖像彫刻

冒頭が宗祖・法然の
自筆と伝わる、
浄土宗の根本宗典



帖首

重要文化財 選択本願念仏集

鎌倉時代・12～13世紀 京都・廬山寺蔵

東 京 九

建久9年(1198)九条兼実の要請によって法然が撰述したとされる。念仏こそが末法の世にふさわしい行であることを体系的に述べた日本仏教史上重要な文献。本書は冒頭に法然の自筆が含まれるといわれるもの。[展示期間:前期]

重要文化財 法然上人坐像

鎌倉時代・14世紀 奈良・當麻寺奥院蔵
(画像提供:奈良国立博物館)

東 京 九

鎌倉時代に造られた数少ない法然の彫像である。頭の頂が平らで角張った形が肖像画からうかがえる法然の特徴だが、この像の頭部は丸い。年齢は数ある画像より若い壮年期に見える。肖像画を写したのではなく、記憶から造ったのかもしれない。[展示期間:前期]

● 宗祖・法然の足跡をたどる長大な聖典

国宝 法然上人絵伝 巻六

鎌倉時代・14世紀
京都・知恩院蔵

東 京 九

全48巻に及ぶ大部の法然伝。法然の生涯だけでなく、浄土宗に帰依した公家・武家や弟子たちの事績までも収めた、数ある法然伝の集大成といえるもの。「四十八巻伝」、または後伏見上皇の勅命でつくられたと伝わることから「勅修御伝」とも呼ばれる。[展示期間:前期]

※会期中場面替えがあります。※会場により展示部分が変わります。



(部分)

第2章 阿弥陀仏の世界

法然は、本尊である阿弥陀如来の名号をひたすらに称える称名念仏をなにより重んじました。貴賤による格差が生まれる造寺造仏などの善事をするには否定的で、法然自身は阿弥陀の造像に積極的ではありませんでした。しかし、それを必要とする門弟や帰依者らには認めました。彼らは阿弥陀の彫像や来迎する様を描いた絵画を拝し、日ごろ念仏を称え、あるいは臨終を迎える際の心の拠りどころとしたのです。多くの人々の願いが込められた阿弥陀の造形の数々は、困難の多い時代、庶民にまで広がった浄土宗の信仰の高まりを今に伝えています。

修理後初公開



● 修理によってよみがえった美の最高峰

● 国宝 阿弥陀二十五菩薩来迎図 (早来迎)

鎌倉時代・14世紀 京都・知恩院蔵

東京九

早来迎は、対角線構図によって速度感を強調した来迎図を指すが、本図は異例な正方形画面とし、生まれた余白に山水景観を描くことで、三次元的な情景表現を達成している。修理で肌裏紙(はだうらがみ:本紙の裏に直接貼る補強紙)が交換され、山水表現がより鮮明になった。[展示期間:前期]



● 山越しに姿を現した、密教的思想による阿弥陀図

● 国宝 山越阿弥陀図

鎌倉時代・13世紀 京都・永観堂禅林寺蔵

京九

浄土での説法を示す印相を結ぶ阿弥陀如来が、山の間から上半身を表す阿弥陀図の優品。画面左上に大日如来の種子「阿」字が表されることから、専修念仏の密教的解釈を行った禅林寺の思想を表したものとみられる。



第3章

法然の弟子たちと法脈

法然のもとには彼を慕う門弟が集い、浄土宗が開かれました。法然没後、彼らは称名念仏の教えを広めようと、それぞれ精力的に活動をおこないます。九州(鎮西)を拠点に教えを広めていった聖光の一派である鎮西派は、その弟子良忠が鎌倉を拠点として宗勢を拡大しました。また、証空を祖とする一派である西山派は、京都を拠点に活動を展開し、『観無量寿経』を図示した観経曼陀羅(當麻曼陀羅)を見出しその流布に大きな業績を残しました。



● 枕元に小さな極楽浄土

重要文化財 蒔絵厨子入阿弥陀三尊立像

(阿弥陀三尊立像)鎌倉時代・13世紀
(蒔絵厨子)室町時代・16世紀
京都・報恩寺蔵

東 京 九

阿弥陀三尊来迎の彫像を納めた、高さ15センチに満たない厨子。優美な蒔絵、彫金の飾金具、精緻な銀製光背などから、貴人の念持仏であったと想像される。寺伝には後柏原天皇(1464～1526)下賜という。[展示期間:後期]

● 数万人の思いがつまった 法然一周忌の仏像

重要文化財 阿弥陀如来立像

鎌倉時代・建暦2年(1212) 浄土宗蔵

東 京 九

法然の一周忌を期して弟子の源智が発願し、数万人の結縁を募って造像したことが像内納入品から知られ、法然示寂後の専修念仏の広がりを伝える。快慶の作風に近いが、立体感に富む衣文の彫刻など相違点も見られる。特定できないが作者は慶派の有力な仏師と考えられる。[展示期間:後期]

県外初公開

● 蓮糸で織られた伝説をもつ究極の極楽浄土図



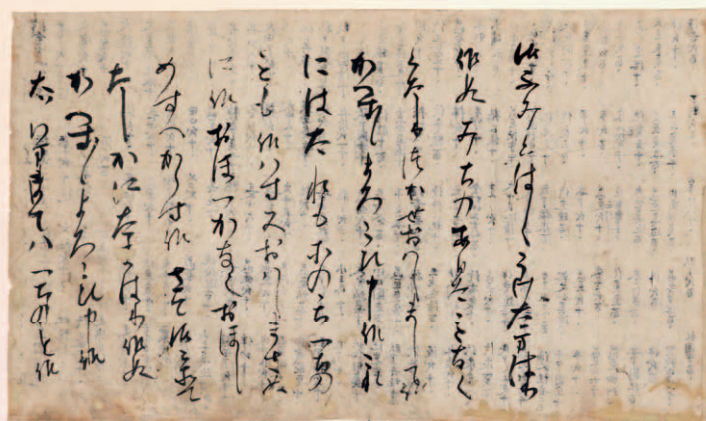
(部分)

国宝 綴織當麻曼陀羅

中国・唐または奈良時代・8世紀 奈良・當麻寺蔵
(画像提供:奈良国立博物館)

東 京 九

浄土経典『観無量寿経』を織り出した縦横4メートルに及ぶ大曼陀羅で、古代から浄土信仰の聖地でありつづけた當麻寺の本尊。これほど高度な技術によって制作された8世紀の遺例は世界でも他にない。
[展示期間:4月16日(火)～5月6日(月・祝)]



● 弟子たちとの手紙に遺された法然の肉声

重要文化財 源空証空等自筆消息

鎌倉時代・13世紀
奈良・興善寺蔵

東 京 九

法然晩年のころ、のちに西山派祖となる証空など門弟たちとやり取りした消息(手紙)。人柄が感じられるような内容も多い。興善寺の阿弥陀如来立像の胎内から見出されたもので、結縁交名(造立に関わった人々の名簿)が裏面に記されている。
[展示期間:後期]

第4章

江戸時代の浄土宗

聖岡が常陸国で関東浄土宗の礎を築き、聖聡が江戸に増上寺を開くと、その弟子たちは体系化された浄土宗の教義を全国へ普及していきました。その流れは三河において松平氏による浄土宗への帰依へとつながり、末裔の徳川家康が増上寺を江戸の菩提所、知恩院を京都の菩提所と定めたことにより、教団の地位は確固たるものになりました。本章では、将軍家や諸大名の外護を得て飛躍的に興隆した江戸時代の浄土宗の様子をたどり、篤い信仰を背景に浄土宗寺院にもたらされ、現代に伝えられた、多彩でスケールの大きな宝物を紹介します。

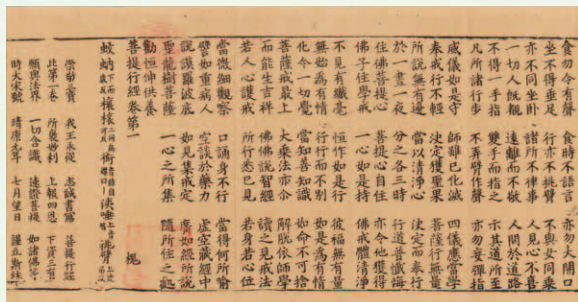
● 知恩院に置かれ、
帝都鎮護の御影と
呼ばれた像



重要文化財 徳川家康坐像 江戸時代・17世紀 京都・知恩院蔵

慶長8年(1603)徳川家康は知恩院を生母於大(おだい)の方の菩提所とした。この像はそれから程なくして家康自身の命によって造られたと伝わる。黒い袍には三葉葵の紋と唐草が黒漆で描かれる。江戸時代を通じて将軍家の御用を務めた七条仏師の作と見られる。
[展示期間:4月30日(火)~6月9日(日)]

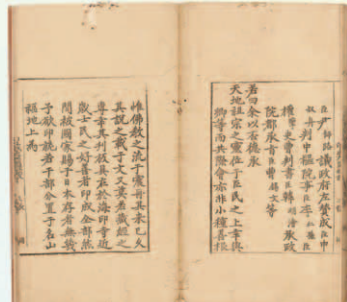
● 徳川家康が増上寺に奉納した3組の仏教聖典



宋版 帖末



元版 帖末



高麗版

重要文化財 大蔵經

宋版:中国 宋時代・12世紀
元版:中国 元時代・13世紀
高麗版:朝鮮時代・1458年
東京・増上寺蔵

東京 九

江戸に開府した徳川家康は、大和国、周防国、近江国の寺院から、領地と引き換えにそれぞれ宋版、元版、高麗版の大蔵經を召し上げ、増上寺に寄進した。3組の大蔵經があわせて伝来する例は世界的に極めてめずらしい。
※会期中展示替えがあります。
※会場により展示部分が変わる可能性があります。

● 幕末に増上寺へ奉納された破格の羅漢図

五百羅漢図

狩野一信筆 江戸時代・19世紀 東京・増上寺蔵

東京 九

幕末の絵師、狩野一信(1816~63)が晩年におよそ10年をかけて挑んだ羅漢図の大幅。羅漢の日常や神通力、仏教世界の様々を、西洋画法も用いながらエネルギーに描き出している。全100幅のうち24幅を展示予定。
※会場により展示部分が変わります(第24幅は東京・京都会場、第57幅は東京・九州会場で展示します)。



第24幅 六道 地獄 [展示期間:前期]



第57幅 神通 [展示期間:後期]



PHOTO OK!

本作品は、撮影もお楽しみいただけます

壮大なスケールの 立体涅槃群像



ぶつねはんそう
仏涅槃像

江戸時代・17世紀
香川・法然寺蔵

東京 九

香川・法然寺の三仏堂(涅槃堂)にある、壮大なスケールで立体化された等身大を上回る釈迦の涅槃像と、それを取り囲んで嘆く羅漢、天龍八部衆、動物たち。その造像は高松藩初代藩主松平頼重(1622~95)が京都の仏師を招いて造営したもので、他に類を見ない。本展では、涅槃像と群像の一部を展示します

開催概要

東京

2024年4月16日(火)～6月9日(日)

東京国立博物館 平成館 〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9

【主催】東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社
【特別協力】浄土宗開宗850年慶讃委員会、文化庁 【協力】NISSHA
【お問合せ】050-5541-8600(ハローダイヤル)

京都

2024年10月8日(火)～12月1日(日)

京都国立博物館 平成知新館 〒605-0931 京都府京都市東山区茶屋町527

【主催】京都国立博物館、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿、読売新聞社
【特別協力】浄土宗開宗850年慶讃委員会、文化庁 【協力】NISSHA
【お問合せ】075-525-2473(テレホンサービス)

九州

2025年10月7日(火)～11月30日(日)

九州国立博物館 〒818-0118 福岡県太宰府市石坂4-7-2

【主催】九州国立博物館・福岡県、NHK福岡放送局、NHKエンタープライズ九州、読売新聞社
【共催】(公財)九州国立博物館振興財団 【特別協力】浄土宗開宗850年慶讃委員会、太宰府天満宮、文化庁 【協力】NISSHA
【お問合せ】050-5542-8600(ハローダイヤル)



仏涅槃像のうち 阿修羅坐像

● 展覧会公式X(旧Twitter) @honen2024_25

● 展覧会公式サイト <https://tsumugu.yomiuri.co.jp/honen2024-25/>

※ 作品が展示される会場は、東京国立博物館、京都国立博物館、九州国立博物館で示しています。

※ 記載の展示期間は東京国立博物館のもので、

前期は4月16日(火)～5月12日(日)、後期は5月14日(火)～6月9日(日)を表し、期間表記のないものは通期での展示を予定しています。

※ 京都国立博物館、九州国立博物館の展示期間についても、期間が限定されるものが含まれます。詳細は後日、展覧会公式サイト等で発表します。

※ 開館時間、休館日、観覧料等の情報は、確定し次第、展覧会公式サイト等でお知らせします。

※ 展示作品、展示期間、会期等については、今後の諸事情により変更する場合があります。最新情報は展覧会公式サイト等でご確認ください。



※ 本展の収益の一部は、「紡ぐプロジェクト」における文化財の修理事業に充てられます。

報道関係お問合せ

特別展「法然と極楽浄土」広報事務局(共同PR内)

〒104-0045 東京都中央区築地1-13-1 銀座松竹スクエア10階

● E-mail honen2024-25-pr@kyodo-pr.co.jp

● TEL 03-6264-2382

